

令和5年12月13日(水)

令和5年度

看護力向上支援事業 透析看護分野活動報告

福島県立南会津病院
透析室 主任看護技師
樋口 幸恵

1. 透析室の課題

①透析前・中・後の患者状態観察が出来ていない

②個別性のある食事指導方法が出来ていない

③透析見合わせ時の意思決定支援方法に不安がある

2. 目標

- ①患者の透析開始から終了までの観察項目の見直し
- ②根拠のある食事指導ができる
- ③患者の意思決定支援

3. 支援前後の変化①「患者観察」

支援前	支援後
<ul style="list-style-type: none">● DWが合わなく血圧上昇・浮腫・HANP上昇● 体重を落とす事を提案するが体調に問題ないと受け入れず● 体重を落とすと色々な症状を訴えDWまで落とせず	<ul style="list-style-type: none">● 体重が減ってしまった事の説明が出来る● 合わない体重のリスクが分かる● DWより体重が多い時少ない時の症状が分かり患者へ説明が出来る

- 根拠を持ち患者観察する事により、小さな変化にも気付く事が出来る様になった
- DWを変更するにあたり患者の状態を把握し訴える症状をアセスメントし、納得いく説明が出来る様になった

3. 支援前後の変化②「食事指導」

支援前	支援後
<ul style="list-style-type: none">● 塩分制限が出来ず体重増加をきたす● 一日6gの塩分制限のところ0g増えているのかを説明● 体重増加の原因になった塩味の強い物が何かを一緒に考える● 季節性にK値が高くなる	<ul style="list-style-type: none">● 調味料や食材の塩分量を学び市販の食材の塩分を知るようになってきて患者へ説明できる● 旬の食べ物のK値を知り事前に注意が出来る。食べ方・重さを説明する事で制限が出来る

- 患者の習慣や嗜好を知るために患者との会話を増やし情報収集し患者個人に合った食事指導をする事が出来るようになった。
- カリウム制限の食事を受け入れ値が下がったまま継続出来ている。

3. 支援前後の変化③ 「意思決定支援」

支援前	支援後
<ul style="list-style-type: none">● 透析見合わせについて説明し、見合わせに関する確認書/撤回書を用いて支援していた● 終末期の患者にどう接していいか迷っていた	<ul style="list-style-type: none">● 確認書や撤回書はあるが、患者の気持ちを聞く事や中断や撤回をしてもその後の対応の仕方を考えるようになった● 患者に積極的に声をかけ気持ちを聞いた● 患者の退院に向けて社会資源をどのように使うか病棟との関わりを持った● 透析見送り時の対応を行った

- 終末期の患者の思いを聞きどう関わるか時間を追って考えながら接したが今後も学ぶことが多い。
- 透析見合わせを訴えてもいつでも受け入れられる体制作りや症状緩和の検討

4. 明確になった課題

- 患者を多角的に理解し治療と生活の支援ができる信頼関係づくり
- 個々の食生活に合わせた指導と使える資源の利用方法
- 意思決定支援には他部署や多職種との連携も重要

5. 今後継続していくためにはどうするか

- ✓患者の訴えや身体症状を根拠を持って観察する
- ✓透析患者の将来を見据えた長期的な関りを大切にする
- ✓多職種との連携を密にする